# 令和３年度第６回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会

令和４年２月 16 日（水）14：00～18：00

## ■　開会

○　新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催とする。

（本日の予定を説明）

○　全委員が出席、委員８名での開催。

○　会議の流れを説明

・15 時 00 分から、令和４年度ボランタリー活動補助金事業(新規)のプレゼン審査

・16 時 20 分から、プレゼン審査に対する選考（結果発表は後日）

・17 時 35 分から、令和４年度協働事業負担金事業の最終選考

・18 時 00 分閉会

（審査会長より開会の宣言）

○　令和３年度第６回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会を開会する。

○　率直な意見交換を通じて公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第 25 条第１項第１号に該当することから非公開とする。（異議なし）

ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。（異議なし）

## ■　審議事項１　令和４年度ボランタリー活動補助金事業（新規）の選考

（事務局から以下について説明）

○　ボランタリー活動補助金事業（新規）の応募状況

○　来年度のボランタリー活動補助金事業（新規）に係る予算

（事務局から事前調査結果等について説明（資料３・資料４））

（委員による審議）

○　ボランタリー活動補助金事業（新規）への提案事業に係る公開プレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催とする。

審査員紹介

審査会長挨拶

審査の流れについて説明

---

（公開プレゼンテーション審査の実施）

○　ボランタリー活動補助金（新規）への提案事業に対する公開プレゼンテーション審査を次のとおり行った。

**【オンラインを含めて不登校の子供と保護者の居場所を広げる事業】**

NPO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ（以下「たんぽぽ」という。）によるプレゼンテーションを実施。

（山岡委員）

事業について質問したい。不登校の子どもの居場所づくりだと思うが、最終的に目指すところは、どういうところか。不登校の子どもが、居場所で安心して落ち着いていられる所があればよいということなのか、その先の学校や社会復帰等までも視野に入れているのか、教えてほしい。

（たんぽぽ）

既に 13 年前から実施しているため、13 年間経て、今までいた子どもたちは、大学に行ったり、保育士になったりと、自分で道を決めて歩みだしている青年が十数人いるので、そういった方向で考えている。

（山岡委員）

運営の仕方について、これまでは、会費を中心に事業を回しているような形だったかと思うが、前年度から、スタッフへの謝金の支払いや持続化給付金といった資金も入れて、事業の回し方の方向転換をされているように見えるが、その点についてはいかがか。

（たんぽぽ）

そのとおりである。私ども担っているスタッフは、60 代の人が多い。これからこの居場所を継続して作るためには、ボランティアだけではなく、謝金や日当といったものがないと継続できない。継続するためには、ボランティアにもお金が払えるようにしたいと考えている。

（山岡委員）

今後の継続的な運営をどうするのか、ということだと思うが、ボランティアにも謝金等を支払うような形にすると、人的な面ではよいと思うが、経費的な面では会費だけではやりきれないということで、今回のように、補助金への申請に繋がっているのかもしれないのだが、そうなると、補助金頼みの運営になってしまうリスクもあると思う。補助金後の見通しをどう考えているのか、お聞かせいただきたい。

（たんぽぽ）

まずは、入所や通ってくる子どもが増えることが、大きな差である。たんぽぽとしては、週４回開いており、週４回通ってくる場合は、月２万円を授業料としていただいている。

現在、多くの子どもたちが不登校になっているので、その子どもたちが、ここを居場所にすれば、授業料も増えていくということになる。

（山岡委員）
　利用者を増やし、利用料収入で、スタッフの運営経費を賄っていこうという方向か。

（たんぽぽ）
　そうである。既に３人増えたので、まずそういう形を考えている。

（山岡委員）
　今回の提案は、オンラインの居場所づくり、親の会をオンラインで運営していくということで、居場所づくりは、オンラインでゲームをやる、親の会もオンラインで繋がるということだけである。オンラインを活用して、居場所を作っていくためには、ゲームをするだけではなく、もう少し工夫が必要かと思う。そのためには、技術やノウハウも必要となってくると思うが、そのことについては、この事業でどのように取り組んでいくつもりか。

（たんぽぽ）
　既に、11 月から試行という形で実施しているのだが、オンラインゲームが終わった後の時間に、子どもたちに情報提供をしている。月に１回イベントを実施しているのだが、それに出てこないかということで、前回は、ボウリングイベントを紹介した。他にも、英語に関心がある子どもには、オンラインで英語の勉強もできる。そういったことに繋がっていくきっかけ、入口に、オンラインゲームがなるのではないかということで、そこから始めて、色んな世界や取組を紹介していこうかと思っている。

（山岡委員）
　オンラインゲームを１つのきっかけとして、その後の時間をどうするかを、工夫していきたいという理解でよいか。

（たんぽぽ）
　そうである。

（田中委員）
　事業の目的について確認をしたい。申請事業として、最終的に目指すところは、子どもたちの居場所づくりで、子どもたちを休ませることを目的にされているのか、その先の学校や社会、ジョブトレーニング等の話もあるが、そういったところを最終目的とされているのか、どこに重点を置かれているのか、教えてほしい。

（たんぽぽ）
　２つとも目指している。子どもたちは、心が休まれば、次は必ず何かやりたいという気持ちがでてくる。私どもとしては、それが１年、２年、あるいはもう少しかかるかもしれないが、その中で次にやりたいことが出てきた時に、ジョブトレーニング等、既に

取り組んではいるが、そういうものを提供し、子どもたちが自立し、自分の意思で動いていけるということを考えている。

（田中委員）
　オンラインのフリースペースということで、ゲームを一緒にするだけではなく、例えば、それぞれのキャラクターを作って、そこで交流するといった、オンラインならではの交流スペースといった考えはあるのか。

（たんぽぽ）
　実際にした例でいうと、工作が好きな子は、オンライン上で何人かの子どもに工作を教えてあげるといったこと、たんぽぽを卒業した子どもたちの中には、大学生や就職した子もいるのだが、その子たちが、オンラインゲームのホストとなり、小中学生と交流する中で、自分の経験を伝えていく。つまり、異年齢の子ども集団というものができると考えている。

（田中委員）
　通ってくる子どもたち、潜在的な利用者が増えることで、これから会費を確保していくということだが、そういった、今はまだ来ていないけど、来るべき子どもたちへの働きかけ、ここを居場所にしてもらうための働きかけ、動機付け等、どのように PR や発信をしているのか。

（たんぽぽ）
　今は、東京新聞やタウンページでも、我々の取組を紹介してもらい、相談が増えている。他にも、地域の中でたんぽぽという居場所があるということを知ってもらうために、月に１回のバザーで、たんぽぽを紹介するという取組みを既に行っている。それを強化していく。また、ホームページにも掲載しているが、SNS を使って広報している。

（田中委員）
　どちらかというと、保護者向けに発信してということか。オンラインスペースを使っていくようになると、子どもにも直接アプローチできる機会もでてくると思うので、検討してほしい。

（たんぽぽ）
　そうである。

（為崎委員）
　鶴見に、横浜市が開設している、ユースプラザという公的なものがあると思うが、公的なものではなく、貴団体のような民間がやる居場所が地域に根付いていく、増えていくことの一番の意義がどこにあるか、教えてほしい。

（たんぽぽ）
　我々の近くにも、ハートフルというところがあるが、学校の近くである。不登校の子どもたちは、学校の近くではなく、学校から離れたところに行きたいという気持ちがある。そうすると、私たちのところのようなアットホームなところに来たい子も結構いる。

**【子ども真ん中居場所事業「みらいはらっぱルーム」】**
　一般社団法人あそびの庭（以下「あそびの庭」という。）による　プレゼンテーションを実施。

（峯尾委員）
　二宮町のホームページ等も見た。東京大学果樹園跡地ということで、跡地の管理は委託事業で、現在の会社が受託しているようだが、管理会社の役割はどのようなものか。

（あそびの庭）
　東京大学果樹園跡地自体は、町民で作られた様々な団体で、自主的な運営・管理をしているのだが、このはらっぱベースのあるみらいはらっぱという場所だけ、そこから切り離されて、事業者に貸し出されている。その事業者であるシンコウイノビジョンという会社は、このみらいはらっぱ全体の運営の責任者となっている。

（峯尾委員）
　そこの管理会社と貴団体がコンテナハウスの利用契約ということで、再受託のような形になると思うが、そのような関係性について、二宮町は認めているのか。

（あそびの庭）
　みらいはらっぱ自体が、循環・共有・チャレンジというコンセプトで借りて、シンコウイノビジョンが運営しているので、この中にある様々なコンテナやキャンピングカー等を、色んな人に使ってもらおうということが、最初の計画であったので、二宮町は理解している。私たちは、平日だけコンテナの一画を借りるということで、話が進んでいる。

（峯尾委員）
　みらいはらっぱには、様々な資源があるようだが、貴団体と同じような活動をしている団体はあるのか。

（あそびの庭）
　法人で、定期的に何日か借りるということは、私たちだけだが、イベント的にドッグパークでイベントをする、コンテナを週末だけ借りてワークショップを開催する団体等、定期的にスポット的に使用する人たちはいる。

（峯尾委員）

コンテナを使った活動というのは、事業計画には、昨年 11 月からスタートしているようだが、既に始まっているのか。

（あそびの庭）
プレオープンという形で、去年の 12 月から、週に２日だけ開けてチャレンジしている。

（峯尾委員）
他にも畑やご飯づくり、プレイパーク、冒険あそび等、様々な事業があり、今回の真ん中居場所の事業との関連性は、どうなっているのか。

（あそびの庭）
子どもたちが来て、大人に言われたことをやるのではなく、やってみたいをやってみようという部分を、すごく大事にしているので、既に学校に行っていない子どもたちの中から、「畑をやってみたい」、「木登りがしたい」、「斧で薪を割ってみたい」といった声が聞こえてきているので、それを一つずつ形にしていくために、私たちはサポートしていく。あくまでも、子どもたちのやってみたいをやるには、どうしようというところで、畑や自由に遊ぶことを軸にしている。

（峯尾委員）
東京大学果樹園跡地利用の協議会もあるようだが、貴団体との関係性はどうなっているか。

（あそびの庭）
協議会自体に５つの部会があり、当団体は、イベント振興部会に属しており、東京大学果樹園跡地の中で、キャンプイベントや大きなマルシェを実施する等、東京大学果樹園跡地全体を盛り上げるような位置づけの部会に属している団体である。

（峯尾委員）
ホームページを見ると、事業と今のキャンプ等のイベント的な事業が非常に多く見受けられるが、この居場所事業との切り分けはできているのか。

（あそびの庭）
切り分けられないと思っている。

（峯尾委員）
そうすると、補助金を使ってキャンプ等も実施するということか。

（あそびの庭）
それはない。キャンプやマルシェは、参加者の参加料で自立できる事業であるので、

今回は、居場所事業に特化した形で補助金に申請している。

（峯尾委員）
　様々なキャンプやマルシェのイベントの際、そこに集まってきた子どもたちが、主体的に関わるといった計画はあるか。

（あそびの庭）
　まだ始められていないのだが、居場所事業を始めて、大人の温かい眼差しを地域に広げていくために、月に１度、はらっぱマルシェを開催しようと考えている。その中で、子どもたちが販売するブース、どのような物を作って、いくらの価格を付けて、どのように販売していくか等を、今後一緒に考えていきたいという考えはあるが、まだ実行できていない。

（峯尾委員）
　様々な補助金等がある中で、基金 21 へ応募した動機や、この補助金を使って３年後の自立に向けて等、こういうことをやってみたい、ということはあるのか。

（あそびの庭）
　この補助金は、２分の１を自分たちで用意するということがあるので、そこに向けて全部補助金があって始めるのではなく、自分たちで、どのように資金を集めていくのか、どうやって持続可能な形にもっていくのか等、考えるプログラムになっていたので、そこがすごく大事だと思い、それがあることで、３年目以降の活動に繋げていけるのかなと考えている。

（中島会長）
　プレオープンしているということで、申請書では、「誰でも」となっているが、実際は、平日ということで、不登校・不登校傾向のある方が参加されているという理解でよいか。

（あそびの庭）
　元々、小中学校に行かない子どもたちの居場所が足りていない、というとこでスタートしたが、プレオープンで蓋を開けてみたら、小さい子どもを連れている父母が来ることも多い。今、コロナ禍で、なかなか居場所や行き場所がないという子たちもたくさん来ている。今の段階では、小中学生だけでなく、小さな子どもを連れた親も非常に多く来ている状況である。

（中島会長）
　事業２の大人向けの講座について、地域の大人の理解を進めるにあたり、関心のある大人以外も地域には存在すると思う、その人たちを巻き込む工夫があれば教えてほしい。

（あそびの庭）
　東京大学果樹園跡地は、町の真ん中にあるため、人目に付きやすい場所である。犬の散歩に来ている人や、散歩をしている地域の高齢者の方々なども、看板を見て、何をしているのかと、見に来てくれているので、既に子育てから一歩置かれているような状況な人たちにも、積極的に、こういう場所を必要としている子どもたちがいるということを、一人ひとり捕まえて話をしている状況が続いている。今後は、回覧板や地域の広報誌にも積極的に原稿を載せていきたいと考えている。

（中島会長）
　不登校や不登校傾向にある子どもたちの支援と、小さな子どもへの支援を一緒にやることで、事業運営上や目的を達成する上で、課題や見えてきたことはあるのか。

（あそびの庭）
　実際に蓋を開けたら、思ったよりも小さい子どもたちと、その親が来たので、ちらほらと来る小学生が、自分たちの居場所だと思えないのではないかという不安が、プレオープンの中で見えてきたことである。
　ただ、町内にあるフリースクールが、開けてみたけれど、２年間、子どもたちが来なかったこともあり、「あなたたちに来てほしい」と積極的に呼びかけることで、逆に行きづらい雰囲気を作ってしまうことは避けたいので、そこを考えながら引き続き試行していきたいと思う。

**【人にやさしくする知恵を子どもと共に考える「やさしい学校」】**
　特定非営利活動法人プラットファーム（以下「プラットファーム」という。）によるプレゼンテーションを実施。

（為崎委員）
　既に交流する場として、子どもと若者の図書館というのを立ち上げていらっしゃると思う。そういう場を既に持っている中で、補助金を活用することによって、今までとは異なった、何を進めたいのか。
　また、困難な状況にある子どもたちへの直接的支援と、その子どもたちを支援する大人たちの輪を作るという２つが混在しているのだが、どちらに重点を置くのか、この補助金事業の目的の部分をお答えいただきたい。

（プラットファーム）
　直接的支援よりも、大人の輪のほうを作りたいと思っている。
　図書館については、場としてある状態である。支援というよりかは、より日常の雰囲気を大事にしており、文化の場と称している。なので、ここで困っているといった雰囲気はなるべく作らないようにしているが、より一歩踏み込んだコミュニケーションを取れる機会を作りたいと思い、今回の「やさしい学校」という交流と学びの場を企画した。

（為崎委員）
　今の話だと、雰囲気を壊さないようにということだが、今回、提案されている事業の実施場所の一つとして、その図書館もあがっているが、そこは上手く併存していけるという理解でよいか。

（プラットファーム）
　図書館の雰囲気というのは、ここ２～３年で、みんなに定着してきたと思っている。
　通常の図書館の雰囲気は作られていて、「やさしい学校」という、また一つの異なった場を作るということで、「やさしい学校」の時は、こういうような目的感であったり、佇まいで、みんな参加しようということが、すみ分けて提供できるようになっていると考えている。

（為崎委員）
　事業の体制について、地域の様々な団体や企業と繋がって、そのネットワークの中で事業を実施していく構想だと、申請書の中で、統括責任者や個別事業の部分に、実行委員会や様々な団体の名前があがっている。役割分担や、最終的な事業の責任の所在が分かりにくかったので、責任の所在はどこにあって、貴団体も含めて関わる団体がどのように役割分担をしていくのか、教えてほしい。

（プラットファーム）
　基本的な企画は、当団体で立てているので、責任の所在は、当団体にあると認識している。各団体においては、それぞれ関わり方が違うため、それぞれが関わる内容についての部分的な責任範中、役割分担と考えている。具体的にいうと、コマを提供してくださる方は、コマの中身ということにおいて、個人情報保護の責任や実施の危険、リスク回避を持ってもらう形になっている。

（為崎委員）
　そうすると、貴団体は、コーディネートをする役割で、適材適所、それぞれにあったものをそれぞれの団体や企業に担ってもらうという理解でよいか。

（プラットファーム）
　そうである。

（為崎委員）
　申請された３年間の計画が、内容や回数頻度、資金の面も不変となっている。年々発展していかない理由を聞かせてほしい。

（プラットファーム）
　未定という部分もある。回数はおそらく変わらないが、内容の変化は大きくあると思う。例えば、性教育やジェンダー教育等、時代にあったものに変えていこうという目的

になっているので、そういった意味では、全体の実施回数等は変わらないが、中身において変わっていく。

（為崎委員）
　中身については、理解した。収支も変わっていないので、最後まで補助金の占める割合が変わらないという中で、３年後、補助金が終了した後、どうするのか気になるところである。申請書にも大きなことは書かれているが、事業の自立化について具体的に考えていることがあれば教えてほしい。

（プラットファーム）
　３年間で、実施のボリュームは変わらないが、関わる方々のバリエーションや属性が大きく変わっていくことが想定できる。今は、比較的、地域の方や、手近な信頼できる方と実施しているところであるが、今後は、企業の方や比較的、資金的なものにサポートしていただける方を増やしていきたいと考えている。

（朝倉委員）
　事業計画について、詳しく聞きたい。いくつかの事業が羅列されており、７、８月に活動時期が集約されているが、これはなにか事情があるのか。

（プラットファーム）
　夏休みに集中的にやりたいと考えている。

（朝倉委員）
　それは、昼間という制約があるということか。

（プラットファーム）
　学校が休みになると、より子どもたちの普段見えていない困り感というものが分かりやすくなるのかと思い、夏休みとした。
　先ほど、直接的なサポートはそこまでと申したが、交流の場を通して、今、何かが必要な子どもには、それが提供できる機会になれば、できる範中でやりたいと思っている。

（朝倉委員）
　今、実施されている図書館の場所は、貴団体として借りているのか。

（プラットファーム）
　代表が個人として借りている。

（朝倉委員）
　収支予算で、家賃の支払いをフラットで計上してされているが、実際は、代表個人で借りられている場所を、貴団体で又借りされる。事業については、通年行うものと、夏

休みのみ行うものの両方あるという理解でよいか。

（プラットファーム）
　そうである。

（朝倉委員）
　この申請書では、夏休みの部分だけ稼働しているように見えるので、家賃をこの期間だけ支払えばいいのではないかと思ったので、確認をさせてもらった。
　全体として、図書館も含めた今のスペースを維持していくために、相応の資金を、今回、補助金という形で手当をしたいと考えられているという理解でよいか。

（プラットファーム）
　そうである。

（朝倉委員）
　プレゼンテーションを聞いて、非常にプロデュース力や、説得する力をお持ちだと感じた。ぜひその力を使って、今後の発展をお祈りしたいと思う。

**【NPO と町内会の協働で空き家活用による地域コミュニティ再生事業】**
　特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画（以下「湘南まぜこぜ計画」という。）によるプレゼンテーションを実施。

（尹委員）
　NPO と町内会との協働とあるが、具体的に、いかほど町内会として関わっているのかが見えない。申請書には、町内会の有志が、居場所の運営を NPO と担っているとあるが、これは大体何名くらいで、400 世帯の町内会のうち一般の町内会員が、この事業に対し理解を示し、賛同しているのか、教えてほしい。

（湘南まぜこぜ計画）
　これまで町内会で活用していた広場の運営を、町内会の有志の 60～70 代の退職された方々で「あおぞら会」という形で、町内会の公認の活動をしていたが、広場がなくなり、活動の場所を、この空き家活用の中に見出して関わっているという状況である。中心メンバーは７～８人で、「あおぞら会」を結成している。
　ラジオ体操等の催しに関しては、町内会で実施していた時は、20～30 人くらい来ていたと思うが、今回、NPO と町内会が協働で呼びかけをするということも町内会で了解をしてもらい、チラシを配布したところ、このような機会でないと、共働きが多い地域であるため、夏休みのイベントとなると、100 人近い方々が来られている状況である。

（尹委員）
　このような活動であるので、一般の町内会員が、より主体的、能動的に関わることが

ゆくゆくは求められると思うが、それについては、どのように広げていくかという考えはあるか。

（湘南まぜこぜ計画）
　そもそも、町内会自体が空洞化しており、現役世代が関われない、高齢化で役員も決められないという事態に陥っていた。ところが、今回、新たに会長や会計の職に、リモートワークで、在宅の方が就いたことで、このような状況下であっても、平日の夜や、土日に集まりが設けられるようになり、そこで居場所づくりについて、他に町内会の活動が全くないような状況でもあるので、町内会として会費を集めて運営をしている以上、町内のみんなが集えたり、活動できる場所として、ここを全面的に後押ししていこうとなった。
　今後２年間も、この３役で進めていくことになるので、その中で、よりそういう場として活動していきたい、という話になっている。

（尹委員）
　後押ししていこうというのは、３役の中での合意がとれているという理解でよいか。

（湘南まぜこぜ計画）
　そうである。

（尹委員）
　申請書の中に、将来的に、この事業について補助金の部分を町内会費で賄うとあるが、これは一般の会員に、どのように理解を得ようと考えているか。

（湘南まぜこぜ計画）
　町内会費で全額は難しいと思っている。今回は、色んなトライアルで、収益事業も含め可能性を探っていくことが、この３年間だと思っている。
　町内会としては、年に２回総会がある。町内会の回覧として、プレゼンテーションで見せたチラシ等も配布しているので、町内会の総会における議決で、その予算や活動報告を承認してもらえると見込んでいる。

（尹委員）
　学習支援の実施場所について、外部の中学校を会場としてあげられており、今活用している空き家以外の場所でも、事業を行う理由はなにか。

（湘南まぜこぜ計画）
　空き家の地域の子どもたちが通う中学校の中に、居場所カフェを作り、運営を開始したところである。相互に、それが子どもたちにとっての居場所として連携していけるような形にしたいと思っている。
　実は、うちにも不登校の子どもたちが来ているのだが、まだまだ不登校の子ども全部

にアクセスできているわけではないので、学校の居場所を通じて、不登校の子どもたちに漏れなくアクセスできるようにしたいと考えている。

（尹委員）
　申請書に、学習支援の指導側の対象者として、学生と書いてあるが、これは何らかの団体等との連携など、具体的になっていることがあるか。

（湘南まぜこぜ計画）
　この半年間、大学生の任意団体と連携し実施している。もう１団体、来年度から一緒にやる予定である。

（水澤委員）
　空き家を利用して、居場所づくりを、NPO と町内会が協働して実施していくということで、成功したら非常にモデルなると思うが、町内会の関わりがどういうところにあるのか、疑問に思うとこもある。この事業を進めていく上で、一番のキーポイントになる部分は何か。NPO の代表が、町内会の委員であるということが大きなポイントかと思うが、それ以外に、人脈やネットワークづくり等のポイントがあるのか。実際に、企業の協力を得て、子ども弁当のお店なども実施されているので、ポイントがあれば、教えてほしい。

（湘南まぜこぜ計画）
　野菜販売に、農家の方が、空き家の前の駐車場を使って、月１回～２回来てくれることになっている。私は、仕事があってそのような場に行けないのだが、町内の世話焼きだった方々が、口コミで昼間いる方々に声掛けをし、野菜販売を運営してくれている。
　企業とのコラボは、住宅地でなかなかイメージができていないのだが、これから現役世代が、このような場づくりに関わっていけるようにしたというのが、今回、一つの試みで、貸会議室などが、そのようなことに繋がればということがポイントになるかなと思う。

（水澤委員）
　ネットワーク的なところで、代表の方が動かれている部分はないのか。

（湘南まぜこぜ計画）
　中学校の中にカフェを作って運営を始めていることは、私が PTA であったことが関連している。また、私の仕事が市会議員であるので、コミュニティソーシャルワーカーや市社協等と、問題を共有する機会があるため、そういう意味での強みはあると思っている。

（水澤委員）
　社協や役所との連携が非常に大きいということか。

（湘南まぜこぜ計画）
　そうである。

---

（委員による審議）
○　ボランタリー活動補助金事業（継続）の提案事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。
　※　選考結果は後日団体に通知。

**■　審議事項２　令和４年度協働事業負担金の対象事業選考**
（事務局から令和４年度協働事業負担金協議結果について説明（資料５））
　○　県協働部署との協議結果を受け、来年度実施する事業を選考した。

**■　閉会**
（審査会長より閉会の宣言）
○　令和３年度第６回神奈川県ボランタリー活動推進基金審査会を閉会する。

（以上）